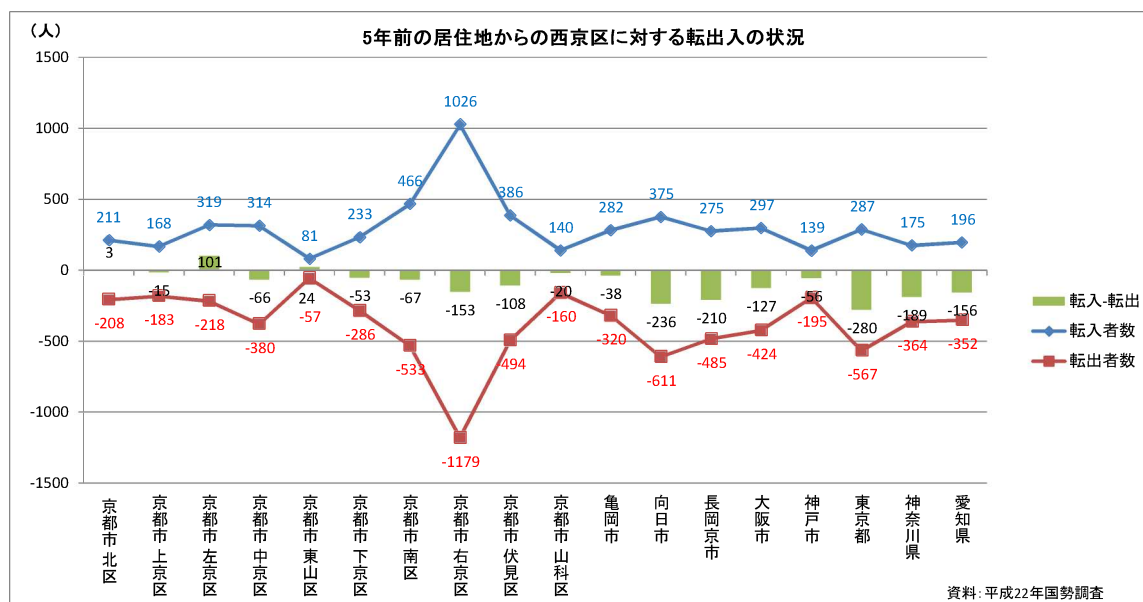


■西京区における転入・転出者の状況

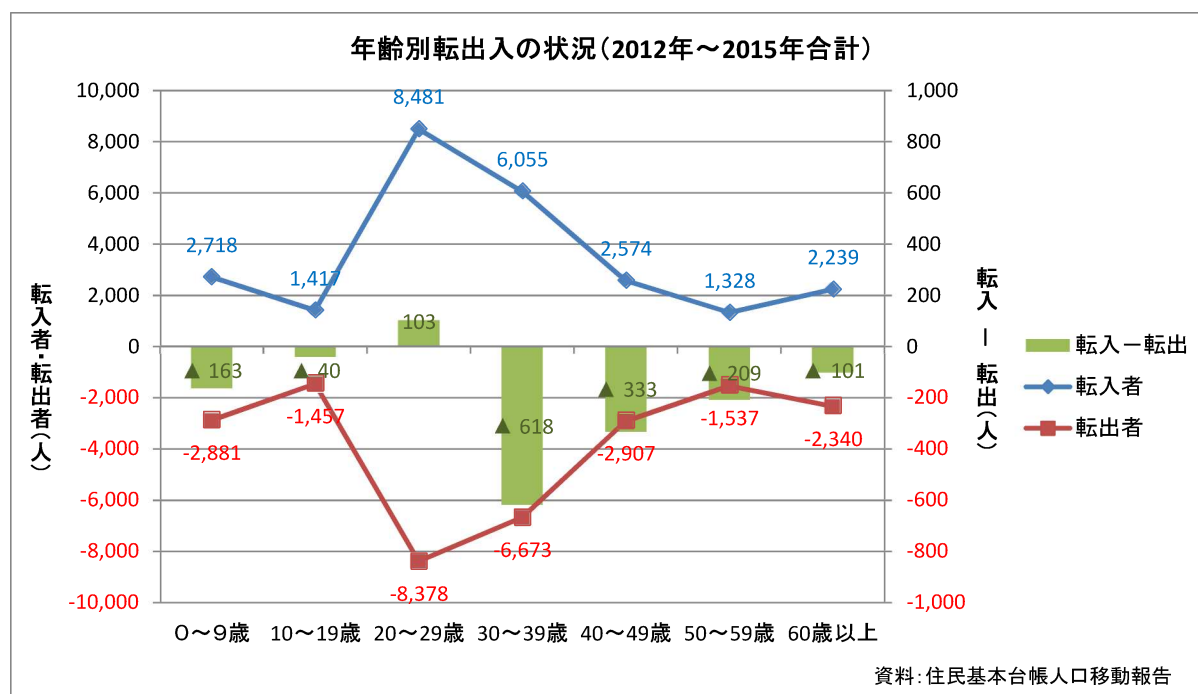
○5年前の居住地からの西京区に対する転出入の状況

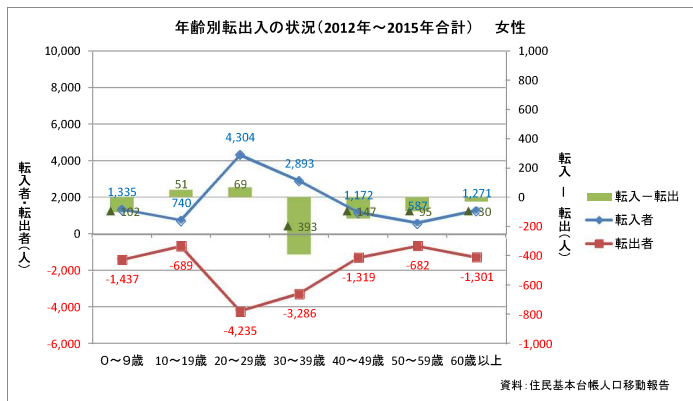
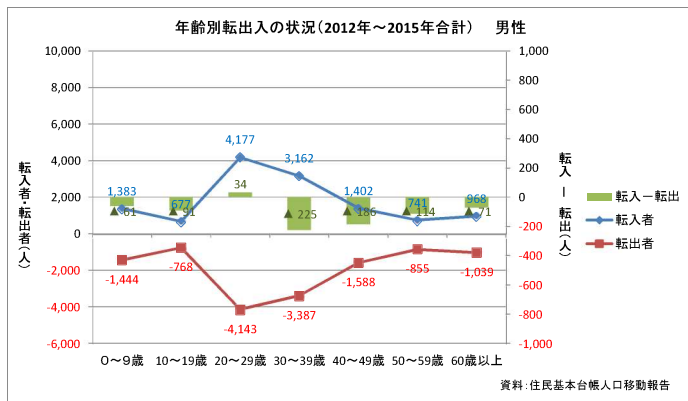
- ・5年間の人口移動を相手地域別に見ると、京都市内の各区や主な隣接市や大都市圏に対しては、転出超過となっているケースが多い。
- ・隣接する右京区との人口の転出入がもっとも大きく、1000人以上の転入・転出がある。
- ・隣接地においては向日市、長岡京市に対して5年間で200人以上の転出超過となっている。その数を上回る転出超過が東京に対しても現れている。



○西京区における年齢別の転出入の状況

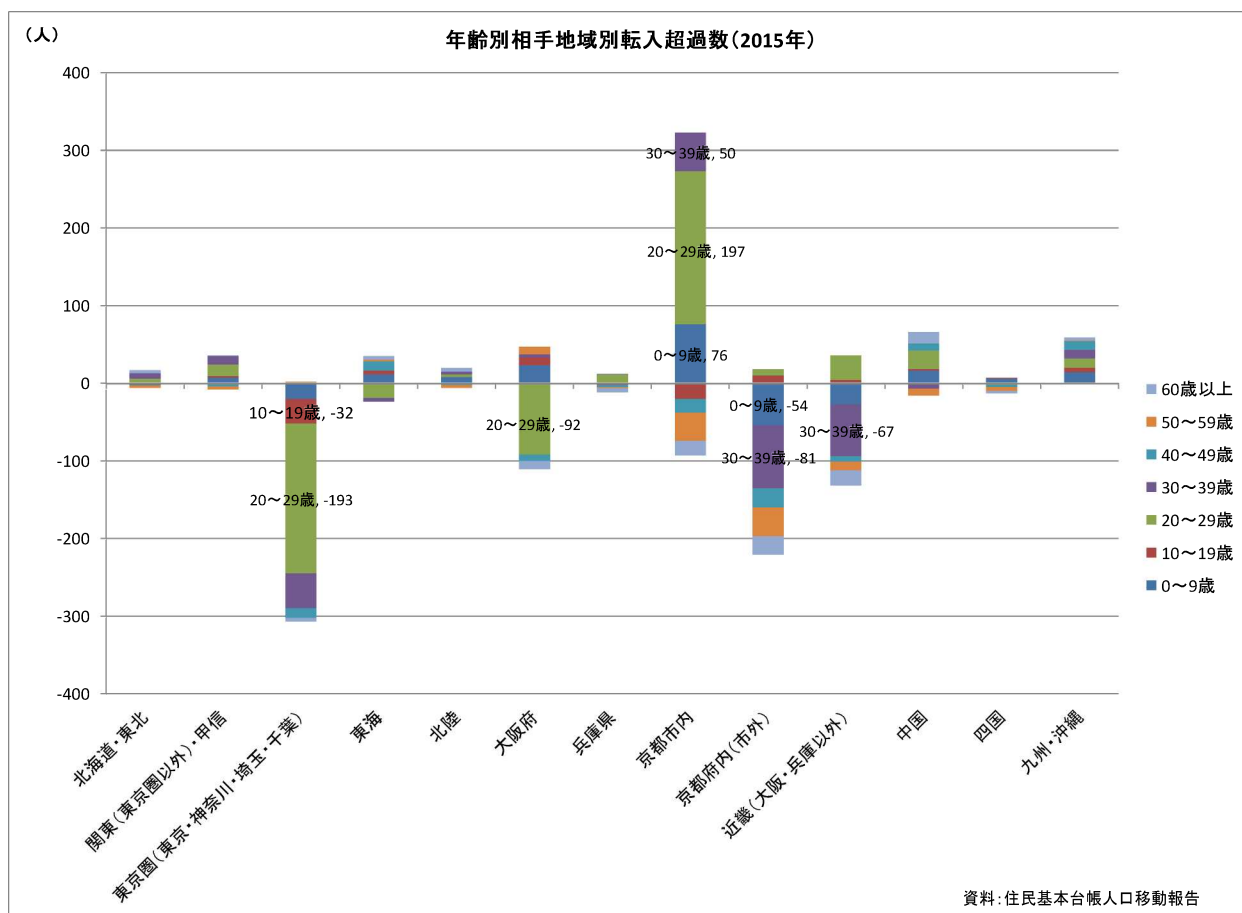
- ・年齢別の転出入の状況を見ると、20～30歳代の人口移動が大きいことがわかる。20歳代では学生の就職による転出や結婚による転居などによる移動が想定される。
- ・また、特に30～40歳代において転出超過数が大きく、ファミリー層の転出が想定されるとともに、女性の転出超過が男性を大きく上回っており、女性が結婚時に転出する傾向が反映していることが考えられる。





○2015 年における年齢別相手地域別の転入超過数の状況

- ・京都市内においては、20～39歳の年齢層が西京区に転入超過しており、その子供層と想定される0～9歳も転入超過となっており、京都市内においてはファミリー層の受け皿となっていることがわかる。
- ・一方で京都府内、大阪以外の近畿圏に対しては、30歳代の転出が大きくその子供層と想定される0～9歳も転出超過となっており、市外へのファミリー層の転出が平行して発生していると考えられる。
- ・東京圏や大阪府に対しては、20歳代の転出超過が大きくなっている。就職や転勤などによる移動が多いと思われる。



○近年の年齢別転入超過数の推移

- ・年齢別の転入超過の状況は、年によって動向が変化しており、データの分析できる４年間では明確な傾向を捉えることはできないが、30～40歳代のファミリー層の転出傾向が比較的大きい。
- ・2015年の状況を見ると、子供を持つ20歳代の世帯の転入が多いことが想定される。また、2012年に10～20歳代の転入超過が大きいのは京都大学桂キャンパスの整備による学生の移動が反映していることが想定される。

